

2018前期「福島の災害復興に学ぶ」第7回（開沼3回目）

○指定文献を読み、クイズを3問以上作って下さい

"Q、福島の米の流通は福島県内[]割、県外で[]割が消費されている。

A、県内3割、県外7割

Q、農林水産省が行っている「木材価格統計調査」の「木材需給報告書」の「木材用」は2011年から2013年で[]パーセント回復した。

A、102.9パーセント

Q、米を含む野菜の基準値はEUが1250ベクレル/kg、米国は1200ベクレル/kgに対し日本は[]ベクレル/kgである。

A、100ベクレル/kg"

"水産庁「水産加工業における東日本大震災からの復興状況アンケート」より、岩手県、宮城県と比べて福島県が最も多く占めている項目は？

福島県の教育旅行宿泊者数は(合算宿泊者数)2010年と2013年を比べてそれぞれ何人から何人へ変化している？

「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査の結果について(2013年度)」より、2011年と2013年を比較して福島は検出した割合が何%から何%へ変わっているか。"

"Q1.例えば、朝食に、食パン、バナナ、牛乳を摂取したとき、およそ何ベクレルの放射性物質を取り込んでいる事になるでしょう？

A1.約27ベクレル

Q2.福島の事故はチェルノブイリの事故と同じようにはならなかった。(内部被曝 ex.甲状腺ガン等の発症率は相対的に見て低かった) 内部被曝を防止する対策として、例えば何を行ったか。

A2.事故直後から牛乳等のヨウ素・セシウムの検査をしていた。

Q3.福島県の産業別就業者割合で事故前の2010年の割合は？

A3.第1次、7.6%、第2次29.4%、第3次60.2%

"

"Q.炊飯された白米に含まれる放射性セシウムは玄米の()分の1(10)

Q.立木の中の放射性物質の量は原発事故後()年後ピークを迎える(10~20)

Q.「風評被害」を判断する基準を2つ(売上と費用)"

○指定文献を読み、コメントを書いてください（500字以上）

"今回の文献は分量的に第一次産業が圧倒的に多く、それだけ福島の第一次産業の割合が多いんだと思っていたら全体の1割ということで驚いた。今回初めて知って驚いたのは米のスクリーニング検査が玄米で行われているということだ。セシウムはヌカの部分に蓄積しやすいが、玄米から白米になる際にヌカを削ってしまう。これでセシウムの9割が廃棄されるし、それに加え日本は欧米より基準値が10倍厳しい。これだけ厳しい検査を超えてヌカも廃棄されている米は安全だろ、と思った。福島の食べ物ヤバイ派のなかでこの事を知ったうえで発言している人はどれくらいいるのかと思った。私は福島の米ってなんとなく害がある気がするなと思っていたが、今回でその考えはなくなった。自分がどれだけ無知だったかわかった。なんとなくのイメージはどれだけの影響を福島にあたえているのだろうと思った。それはそれぞれのものさしによって違うのだろうけれど、今回の文献を読む前と読んだあとで私のものさしは大きく変わった。またチェルノブイリから学べる事、チェルノブイリとは全く状況が違うので学べない事をしっかり区別すべきと思った。農地でのセシウム対策はチェルノブイリのときのノウハウのおかげで早く対策ができたし、チェルノブイリがなければ早く農地回復をするために除染してその土の廃棄場所問題になったり、反転耕して農作物がうまく育たなかったりしただろう。チェルノブイリが福島の問題に大いに活躍していると思った。

福島を見れば今の日本が抱えている問題まで見えてきて福島よりも深刻な県があるのも関わらず、何かと原発に絡めて福島ヤバイと言われ続けているなと感じた。"

"福島の食べ物について、「福島の食べ物は(放射線を気にして)やばい」と思っている人や「フワッとした不安を持っている人」が多数います。何も知識のない人たちが、センセーショナルリズムを信じたりしているせいで、風評被害が生まれているのだと思いました。被爆国である日本人は人一倍原子力には敏感で

危機感を持っている表れだとも思いました。しかし風評被害が影響し、直販店ですら離れるぐらいなので、原発の影響を感じました。福島へのセンセーショナルリズムはその注目を生かして逆に食べ物への安全性を世間の人に植え付ける機会になればいいと思います。日本は世界的に見ても食べ物の安全性に非常に気を使っている国です。欧米より10倍、ヨーロッパより数倍厳密に行なっています。福島の食べ物は、厳しい日本の検査の値をクリアしているので国内の他の地域の食べ物と比較することももちろん、他国と比べても非常に安全性が高いことが伺えます。日本に滞在していると、日本の食への安全性への拘りの強さを感じることは少ないですが、海外から客観的に見ると非常に高いことがわかります。また、食糧生産の難しい日本国で、福島からの生産が如何に大きなものであったかを知る良い機会であると逆に思います。しかし、漁業に関しては3.11以来衰退しています。91%も未だに回復していません。逆に、漁を辞めることによって、以前より魚が増える、などの「不幸中の幸い」の出来事は起こっています。不幸中の幸いを生み出すのは非常に難しいと思いま

すがそこから見えてくる新しい魚、漁の仕方など、一つでもプラスになることがあると思います。第一次産業に悩む反面、第二次、三次産業は震災以前より発展しています。しかしその反面、修学旅行客などの子どもは半減し、学校側が福島へ間違った見解を持っていることがわかります。しかし、震災後多くの子どもたち(生徒)がボランティアに参加しています。偏見を持っているのは大人であることがわかります。実際に現地へ足を運んだ子どもたちが福島の本当の状態(放射線の正確な知識など)を大人たちに伝えることがこの対策であると私は思います。"

"一回目の授業でクイズにもあったように、福島の米の生産順位は、4位。1位じゃないから、あまり知っている人もいないかもしれないけど、とても多い。地形や特徴から少し考えれば5位以内にランクインしていそうだと思うし、そこ以外にどこが作れるんだと思ったら自然と出てくる回答だと思う。「一つの金メダルより多くの入賞を」「時期をズラす」という部分を読んで、なるほどと思った。モモや梨、キュウリ、トマトもそんなに作っていたんだと驚いた。ブランド化をせずとも、「福島と言えば」を作らずとも、やっていける豊かさがあった。他県の生産が落ち込む時期を埋めることができる生産能力があった。

意識の根底にある「福島の食べ物コワイ」という考えをそもそも持たないような、考えるにも及ばない程度のことにならなければ、海産物をはじめ農産物の需要や生産も元通りにはなっていないのだろうと思う。科学的な意味でも宗教的な意味でも。百貨店や大手スーパーでもたまに「九州展」みたいな感じで地元の人に来て、出店するような企画がある。その食品の安全安心を目の前で保障してくれる人がいれば、「どうなんだろう」という疑心暗鬼な気持ちを持たずに気持ちよく買い物ができるかも知れない。日本酒の需要が高まったことは、直接的には被害を受けていないだろうみたいな安心感があって、それで東北が復興できるならと外部の人々が意識した結果だと感じた。たった「福島県産」の4文字が原因でそれらの食べ物が買ってもらえないのは嫌だとおもう。

"ネットのニュースで、芸能人が「故郷の沖縄に福島の子どもたちを呼んで海で遊ばせる」という企画をやっている、という記事を見ました。そこに参加した、福島に住む親子に行ったインタビューで、親は「子どもにとって初めての海。放射線を気にせず遊ばせてあげられて良かった」というようなことを語っていました。指定文献に海関係はまだ再開できていないという話がありましたが、現在でもまだ不安に思う住民の方がおられるとわかりました。福島側から考えると一刻も早く完全再開をして、観光客を呼び戻したいと思いますが、住民の人の気持ちはとても共感できます。もし私も同じ立場になっていたら、聞いたことのある知識だけで、農業も漁業も共通して使う「水」の源に、直接、しかも子どもが入ると考えてしまうと思うので

、安心できないだろうと考えました。また、そう考えると、食品についても同じような印象を持っていたと思うので、やはりこの文献でよく書かれている「震災前からあった問題」「日

本で叫ばれている問題」については何事にも前提としてしっかり調べて判断する必要があることを改めて実感しました。

そこで、実際に参考にする文献などは、私たちのような一般人はどこで判断すべきなのでしょうか。"

○要望や疑問があれば書いて下さい